

釜山日本人学校における ICT を活用した教育実践

前釜山日本人学校教諭

北海道登別市立幌別西小学校教諭 小林 翔太

キーワード：オンライン、韓国、ICT

赴任校の概要 (2021. 4. 1 現在)

学校名：日本語 釜山日本人学校

現地表記：BUSAN JAPANESE SCHOOL

[URL:http://busan.js.com](http://busan.js.com)

児童生徒数 小学部 29 名 中学部 4 名

1. はじめに

2019年(平成31年)から2年間、釜山日本人学校に派遣され、勤務する機会をいただいた。赴任する少し前から、日韓関係の悪化に関することが日本の新聞・ニュースでも頻繁に報道され、不安な気持ちになったことを覚えている。また、今も世界中の人々を苦しめている新型コロナウイルスにより、韓国国内にある現地の学校や日本人学校は、様々な対策を取ることが必要になった。派遣されている2年間、たくさんの教育機関に伺う機会が欲しかったが、日韓関係・新型コロナの影響で、そのほとんどが中止になってしまった。

しかし、現地で暮らし、現地の人達と関わりをもつ中で、教育事情が見えてきた部分がある。私は現地の人達と滑らかに交流するために、必死で韓国語を習得する努力をした。

2. 1年生国語・算数・音楽・道徳・学級活動

(1) 新型コロナウイルスのため、2020年4月から6月中旬まで、オンライン授業を実施した。

Zoom(Zoom Video Communications)を扱うのは初めてだったため、基本的な使い方を最初に覚える時間が必要だった。今年度の新生徒は4名。入学式も学校でできず、Zoomで行った。

通常、1年生は入学後、椅子の座り方、鉛筆の持ち方、学校内の施設の使い方など、ルールをしっかりと教える。それができないままのオンライン授業は非常に厳しいものがあつた。実際に会ったこともない級友と、Zoomで初対面し、「おはようございます」と言ったときの4人の表情は、忘れられない。

① 朝の会・帰りの会

まずは、大きな声で返事をする。担任を含め、5人。「コンピューターを使う」というだけで、気分が高揚し、姿勢が崩れることもあつた。1人ずつ呼名し、「はい」と大きな声で返事ができるまで練習した。Zoomだったが、顔の表情や、緊張している様子など、しっかり感じ取ることができた。時間差もそれほど感じず、ネット環境も問題はなかった。

② スポットライトの活用

低学年の児童は、おしゃべりな子が多い。話をしていく中で語彙が増えたり、言葉のアクセントを覚えたりしていくものだ。そのため、授業中の発言を丁寧に拾い、全員がその児童に注目するよう「スポットライト機能」を使用した。通常、声に応じて自動で画面が切り変わる。しかしスポットライト機能を使えば、1人の参加者のビデオにスポットライトを当て、その参加者のビデオをすべての参加者に対してメインのアクティブスピーカーとして表示することができる。また、担任に注目させたいとき、黒板を大きくメインで見せたい時など、頻繁に

担任が操作し、画面運営の指揮をとりながら授業を進めてきた。

国語科では、物語の音読を1人ずつ発表する時に用いた。算数科では、ノート交流をする時に、順番でこの機能を用いた。

③ 教科書やノートを共有画面で見ながらの国語・算数

国語科・算数科は毎日1~2時間ずつ行った。4月のうちは、45分間椅子に座り、画面を見続け、授業を行うのがとても大変だった。徐々に集中力も身についてきたが、30~35分授業を行い、残った時間は、児童に自由に話しかけてもらい、好きな食べ物の交流や、家の中にある物の紹介、質問タイムなどを行った。

4月28日(火)の授業では、「あ」のつく言葉を集めた。まず、担任が書いたノートを共有画面で映し、見本を提示する。児童も同じように「あり、あしか、あいさつ」とノートに書く。その際、日づけの書き方や、次の行に移る書き方など、ペン機能を使って赤で示す。言葉だけでは伝わりにくいので、赤い色で画面上に示せたことが良かった。しかし、通常の1年生は、黒板を使ってゆっくり丁寧に指導し、机間巡視をして、ノートの取り方を学んでいく。オンライン授業で頑張った4人は、本当に努力したと思う。机間巡視ができないかわりに、「〇〇さん、ノートを見せてください」とこちらから呼びかけた。パソコンやタブレットの画面に収まるように上手にノートを持ち上げられない児童もいたが、そばにいた保護者が手伝ってくれたこともあった。

黒板には大きめに文字を書いた。教師の画面のみ、反転して映る。事前に画面に映る範囲を調べ、ビニールテープで印をつけておく必要があった。

オンライン授業に入る前に、1日だけ時間を取り、保護者に教材を取りに来てもらう日があった。その時に算数科で使う「ブロック」を配付した。「なかまづくりとかず」「いくつといくつ」など、数の大小を学ぶ場面では、Zoomの中で、全員ブロックを操作していた。また、足し算や引き算でもブロックを使用しながら授業を進めた。教科書の図を共有して画面に映し、同じようにブロックを置く活動もした。

1年生の算数では、多くの場面でブロックを使った活動を行う。数量への関心をもたせ、数を多面的にとらえ、数についての感覚を豊かにすることが大切である。教科書のイラストに直接ブロックを置いたり、黄色いブロックを裏返して白にして比べたりする作業は、声かけだけでは理解しにくい。そのような場合、事前に写真を撮影しておき、共有画面で示す。

たし算やひき算はもちろん、「どちらがながい」という単元でも、ブロックを使用し、オンライン授業を進めた。身の回りにあるものを、直接比較や間接比較で比べる様子を、学級全体で交流することができた。

また、教科書のページを画面で共有し、児童に答えさせる授業も行った。「いくつといくつ」の学習では、合わせて10になる数字を見つけた児童が、赤いペンで囲む活動をすることができた。「先生、見つけました。7と3です」「そうですね。囲んでみてください」赤く囲まれると、「おお！」と他の児童からも歓声があがり、興味をもって授業に臨んでいることが分かった。

毎日、宿題を出し、終わったら担任のスマートフォンに画像を送ってもらった。保護者が協力してくれたため、どの家庭も意欲をもって宿題をしていた。翌日、その宿題を画面で共有し、評価しあうこともあった。

④ 難しかった音楽、盛り上がった道徳

国語科・算数科が中心となったオンライン授業。しかし、1年生に興味をもってオンライン授業を受けてもらいたかったため、他教科もZoomで実施した。教材配布の際、1年生にはカスタネットも渡した。リズムの学習を全員で楽しく行った。

「タン・タン・タン・うん」という基本的な拍打ちを覚え、「バ・ナ・ナ・はい!」「い・ち・ご・はい!」など、画面の中で音楽リレーをすることができた。

しかし、校歌を教えようとした際、一斉に歌うとずれてしまうことが分かった。担任も入れて5人。5台のコンピューターでぴったりと歌を歌うことは非常に難しいことが分かった。(代わりに歌詞をカードで提示し、難し

い言葉の意味を教えた)

道徳では、教科書を用い、同時に画面共有もしながら授業を進めた。「どうしてこうなるのかな」では、学校の中の様子が書かれているイラストを見せ、事故やけがが起こってしまった原因を考えさせた。4人とも、様々な意見を発表し、画面の中で交流することができた。また、他の単元では、揺れ動くきつねの心情などにも注目した。道徳も工夫次第ではオンライン授業が可能だということがわかった。

⑤ その他

通常登校の際は、朝から下校まで、昼食の時しかマスクを外してはいけないルールになっている。しかし、オンライン学習の時は、全員自分の家の中で授業を受けているため、みんなマスクを外していた。児童の表情、教師の表情がよくわかる。特に低学年は喜びや悲しみ、授業の理解の様子を、思い切り表情に出してくれるので、その点は良かった。また、ある日の朝の会では「先生以外、みんな、しましまの服を着ているよ!」と気付いた児童もいて、画面で全員の着ている服を映しあう場面もあった。

また、オンライン授業では、双方向のコミュニケーションをとることができることが重要だと考える。韓国の現地の学校では、教師が用意したビデオ動画を視聴させるだけになり、児童生徒が理解していなくても進んで行き、質問もできないことがあったと聞いた。学力に応じ、分けられたグループで同程度の生徒が集まる高校の授業や、予備校での受験指導ならば適しているのかもしれないが、入学したばかりの小学1年生の授業には適さない。

(2) 取り組みの成果

Zoomでのオンライン学習が小学校生活のスタートとなった、釜山日本人学校の1年生。初めは「こんな状態で国語や算数を行っていくのは無理なのではないか」と、頭を抱えたこともあった。過去に北海道の小学校で1年生を担当したことが何度かあったが、オンライン学習でなくても、新1年生には様々な困難を乗り越えていく必要があると感じていた。学習用具の準備からしっかり教えたい、返事や座り方をきちんとさせたい、書き順や、計算のこつを教えたいなど、Zoomの機能を使って可能な範囲で指導してきた。すぐに机間巡視ができない点や、そばに寄り直接目を見て褒めてあげられなかったことが、とてももどかしかった。

しかし、Zoomの機能を使って、「いつか通常登校ができたときは、こんな素晴らしいことが待っているよ」というメッセージは伝え続けた。釜山日本人学校にある教室の写真、先生や職員の顔写真なども毎日見せてあげた。

現地(韓国)の学校では、2020年5月13日から「高校3年生」、20日から「小学1~2年生」が登校を始めることになった。これは、大学入試へのスケジュール、低学年を持つ親の事情などを考慮している。しかし、釜山日本人学校では、低学年だからという理由で、簡単に登校を早めることはできなかった。(他の学年との公平性、防疫の面等)

6月、分散登校が認められ、初めて1年生は教室に足を踏み入れた。Zoomでのオンライン学習が身についており、スムーズに通常授業に移行することができた。発言の仕方や、数の概念など、オンライン学習を通して学んだことが、いくつか定着していて安心した。テストについては、オンライン学習ではできなかったので、登校した時にまとめて実施した。しかし、工夫次第で、様々な学習ができ、知識を深められることがわかった。

3. おわりに

日韓関係の悪化、コロナウイルスの影響などでかなり制限された2年間であったが、出来る限り多くのことを吸収し、研究していきたいという姿勢で過ごしてきた。日頃から親しくしていただいている韓国教育機関を訪問したり、現地の学校の情報を得ながらのオンライン授業を実施したりしたことは、国内へ戻ってからも、生かせる研究であったと確信している。また、私の実践内容が、今後何かの役に立てば、幸いである。